

LITTLE BIG

第 74 号 2022. 11. 3

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

<https://www.library.fcs.ed.jp/>

【Pieces - かけらたち -】 本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。
みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆僕は何にも負けていない。僕は何にも勝っていない。

勝ちたいとも思わない。勝ちたくないとも思わない。

負けたいとも思わない。負けたくないとも思わない。

ただ、自分で選びたい。

自分の意思で、なんでもいいから、何か選びたい。

『カンフー&チキン』（小嶋陽太郎／作 ポプラ社 2022.2 p289）

◇そんな失敗をやらかしてしまった直後に「辛い」「苦しい」「悔しい」「悲しい」
などという気持ちになったら、ラッキーだと思ってください。

それは、失敗した経験がそのひとの記憶にしっかり根付いた瞬間だからです。

言い換えれば、新しい知識を受け入れる素地ができた瞬間だからです。

『やらかした時にどうするか』（畑村洋太郎／著 筑摩書房 2022.6 p61）

◆「囲いの外に出た羊は、狼に捕まって食べられるからですね」

「……」

「でも、もっとおいしい草を見つけられるかもしれませんよ」

『ペイント』（イ・ヒヨン／著 小山内 園子／訳 イースト・プレス 2021.11 p217）

◆あのね、どっちもどっち、って思えるのが友だちだと思うよ。人間は綱を引っ
ぱりあうのが好きだからね。弱い人間ほど優位に立ちたがるものなんだよ

『わたしのあのこあのこのわたし』岩瀬成子／著 PHP 研究所 2021.2 p68）

◆でも、逃げない限り、夢はそこにある。自分から手放さない限り、夢は絶対に
逃げていかないってこと

『午前3時に電話して』（小手鞠るい／著 大庭賢哉／画 講談社 2021.5 p180）

18 歳から…

＼大人?!／

民法が改正されて、
4 月から「成年」が
20 歳以上から 18 歳以
上になりました。18
歳になれば、法律上は
大人です。自分で決め
られる自由が増えます
が、その分、行動に責
任がともなうようにも
なります。

子どもから大人へ、
どんなことが変わるの
か考えてみませんか？

『大人になるってど ういうこと?』

（神内聡／著 くもん
出版 2022）

「成人」になったら変
わること、変わらない
こと、知っておいた方
がよいこと等、事例を
交えて「大人」につい
て考えます。

『18 歳までに知って おきたい法のはな し』

（神坪浩喜／著 みら
いパブリッシング
2020）

自分で何かを決める
には、一定の知識や考
え方を身につけておく
ことが必要です。身に
つけておきたい法的な
ものの見方、考え方を
弁護士の著者が解説し
ます。

＼ YA の本棚から ／

タイトルの『スクラッチ』って…？

『スクラッチ』

(歌代朔／著 あかね書房 2022.6) 913/ウ



中学3年の夏。コロナ感染症流行のため、バレエ部の鈴音(すずね)は市郡総体が中止になり、美術部の千暁(かずあき)も特選を目指していた市郡展覧会の審査会がなくなります。

楽しみにしていたお祭りさえなくなり、すっかりやる気をなくして

しまった鈴音と、豪雨で被災し、引っ越した先の母の実家のある田舎で、家族に気遣って気持ちを抑え込んでしまっていた、千暁。二人は、コロナ禍の中をまがきながら、自分達らしい道を模索していきます。

親ガチャなる言葉を聞く昨今。もし子が親を選べたら…

『ペイント』

(イ・ヒョン／著 小山内園子／訳 イースト・プレス

2021.11) 929/イ



子どもを欲しがらない人が増えた近未来の韓国。政府は少子化対策として親の代わりに子を養育する「NC センター」を設立します。施設に引き取られた子ども(国家の子ども)には13歳から19歳まで「父母面接(ペイント)」

で親を選ぶ権利が与えられます。ただし親を見つけられなければ、NC センター出身記録がIDに保持され差別の対象に。センター出身の17歳「ジェヌ 301」は、家族のあり方や親との関係、差別問題に疑念を抱き…。

『ぼくらの時代の罪と罰』

(森達也／著 ミツイパブリッシング 2021.12)



326/モ

社会に存在している法律。資本主義から日本国憲法、民主主義や三権分立に至るまで、法を抜きに私達の社会を考えることはできません。特に、世界的にみて維持している国が少ない死刑

制度について本著は言及します。日本国民の8割が死刑制度を支持しているにもかかわらず、死刑の実際を知っている人はどのくらいいるのでしょうか。現代の罪と罰について今一度考えさせてくれる一冊です。

『ラスト・フレンズ』

(ヤスミン・ラーマン／著 代田亜香子／訳 静山社

2021.6) 933/ヤ



種類は違うものの、それぞれに誰にも言えない苦痛を抱えているミーリーン、カーラ、オリヴィアの3人。学校も生活環境も全く違う、接点のない17歳の彼女達が、とあるマッチングサイトで出会います。

彼女たちは「死にたい」という願望をかなえるため、マッチングサイトの指令に従い、一緒に行動しますが、お互いを知るうち、今まで自分では見えていなかった部分に気付くようになり、次第に気持ちにも変化がおきます。しかし、絶対に離脱を許してはくれないサイトの指令。彼女たちが見つけた物語の答えとは？！

塀の中から聞こえる少年たちの真っ直ぐな思いを感じてみてください

『空が青いから白をえらんだのです』 (寮美千子／編 長崎出版 2010.6) 911/リ

幼いころの記憶、家族に向けた思い、自分との葛藤。少年刑務所に収容されている少年たちが書いた詩はどれも素直で繊細です。そこには「犯罪者」ではない、純粋な彼らの姿があります。みなさんの悩みや思いに重なる詩もあるかもしれません。詩を通して打ち明けられる思いからは、この先の明るい未来に向けて今を懸命に生きている彼らの希望が伝わってきます。